

2019年度 事業計画

2019年4月 1日から
2020年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

2019年3月作成

所 信

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた中間年の2018年度は、主要事業が概ね順調に遂行され、いよいよ自国開催の東京オリンピックの前年となる2019年度を迎えることとなります。ここに加盟団体の皆様をはじめ協賛スポンサーや多くの関係団体の皆様のご支援ご協力に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。

2019年度の事業計画にあたり、選手強化事業では、オリンピックの前年として正念場を迎えます。世界の勢力図と日本の立ち位置を占う7月の世界選手権大会（韓国・光州）を最重点大会として位置づけ、競技力向上に取り組みます。また、「水泳ニッポン・中期計画2017 - 2024」に基づき、7月のユニバーシアード大会（イタリア・ナポリ）、世界ジュニア選手権大会（ハンガリー・ブダペスト）をはじめとした各年代の国際大会に選手を派遣し、次世代の選手強化にも積極的に取り組み、より高いレベルで戦える選手の早期育成、選手層の拡充を図ります。

競技大会開催事業につきましては、東京オリンピックを見据えた各競技のテストイベントの準備を本格化させ、国際基準の質の高い大会運営を目指します。また、競技役員・国際審判員の養成、学生補助役員の育成など国内競技会のさらなる充実を図り、主管団体と連携して、全国で統一した高いレベルの競技会を実現します。

指導者養成事業では、2019年度よりスタートする新指導者制度の実施に向けて、指導者養成3委員会による協議・協働を推進し、スポーツ文化の創造およびスポーツの社会的価値向上に貢献できる指導者の養成に取り組みます。普及事業としては、『水泳の日』の3回目となる地方開催（愛知県）を実施します。水泳の楽しさを子どもたちに伝えるだけでなく、水難事故防止と水泳ファミリーの拡大を地域ブロック単位で全国展開できるよう、イベントの企画・運営ノウハウのパッケージ化にも取り組みます。また、スポーツ庁の国際貢献事業『SPORT FOR TOMORROW』や国際水泳連盟（FINA）の『Swimming For all - Swimming For Life』プログラムと連動した、水泳を通じた国際貢献事業の実施も検討します。

総務関係事業では、ガバナンスの強化およびコンプライアンスの徹底をより一層図り、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性）の向上に取り組みます。また、これまで同様、自主財源の確立およびマーケティング活動についても注力します。広報では、水泳競技への注目度を一層高めるため、ファン目線を取り入れたウェブサイト（HP）の運営ならびに機関誌の発行を推進します。情報システムでは、競技者登録管理システムの機能改善に取り組みます。これら組織基盤の強化を図りつつ、スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本オリンピック委員会などの関係機関・団体とも連携強化・協働を図り、競技団体としての価値向上を図ります。

結びになりますが、本連盟を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況であることを認識しなければなりません。2020年の東京オリンピック、2024年の本連盟100周年、そして日本水泳界の未来に向けて、各加盟団体と情報共有および意思疎通を密に図り、水泳界が一丸となった「オールジャパン体制」をより強固なものにしてまいります。皆様のなご一層のご支援ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

2019年3月10日

会長 青木 剛

事業の方針

I 競技大会開催事業

2019年度は、東京オリンピック（2020年）ならびに世界選手権福岡大会（2021年）を見据えた、世界に誇る日本の競技運営の総仕上げの年と位置づけ、競泳・飛込・水球・AS・OWSの日本選手権を中心に、国際規準の質の高い運営を目指す。全国で開催される主要大会においても、日本選手権を基準とした企画・運営を行う。全国大会の実施にあたっては、各大会の開催地および主管・共催団体との連絡調整を密に行い、企画、立案、運営、予算管理を着実に実施し、準備から大会終了までを統括する。日本選手権などへの各加盟団体からの役員派遣および主要大会への本連盟からの役員派遣を通して、全国で統一した高いレベルの大会運営を目指す。

1. 国内競技会開催事業

(1) 【競泳競技】

①	日本選手権水泳競技大会 (50m)	4月2日～8日	辰巳国際	東京
②	ジャパンオープン2019 (50m)	5月30日～6月2日	辰巳国際	東京
③	日本大学・中央大学対抗戦	6月29日	辰巳国際	東京
④	早稲田大学・慶應義塾大学対抗戦	6月30日	辰巳国際	東京
⑤	全国国公立大学選手権大会	8月10日・11日	鴨池公園プール	鹿児島
⑥	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	アクトームくまもと	熊本
⑦	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	京都アクアリーナ	京都
⑧	全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～26日	辰巳国際	東京
⑨	日本学生選手権水泳競技大会	9月6日～8日	辰巳国際	東京
⑩	国民体育大会	9月14日～16日	笠松運動公園プール	茨城
⑪	日本選手権水泳競技大会 (25m)	10月26日・27日	辰巳国際	東京
⑫	日本社会人選手権水泳競技大会	11月9日・10日	静岡県富士水泳場	静岡
⑬	全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月26日～29日	東京アクアティクスセンター	東京

(2) 【飛込競技】

①	日本室内選手権大会	4月19日～21日	辰巳国際	東京
②	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	奥武山水泳プール	沖縄
③	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	京都アクアリーナ	京都
④	全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～25日	丸善インテック	大阪
⑤	日本学生選手権水泳競技大会	9月7日・8日	ダイエーパレスエニックス	新潟
⑥	国民体育大会	9月14日～16日	笠松運動公園プール	茨城
⑦	日本選手権水泳競技大会	9月21日～23日	金沢プール	石川
⑧	国際大会派遣選手選考会	2月5日～9日	辰巳国際	東京
⑨	全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月25日・26日	東京アクアティクスセンター	東京

(3) 【水球競技】

①	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	奥武山水泳プール	沖縄
②	全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～26日	京都アクアリーナ	京都
③	日本学生選手権水泳競技大会	9月6日～8日	相模原市立総合	神奈川
④	国民体育大会	9月13日～16日	県立土浦第二高校	茨城

⑤	日本選手権水泳競技大会	10月4日～6日	辰巳国際	東京
⑥	全日本ユース (U15) 選手権大会	12月24日～27日	倉敷・児島	岡山
⑦	全日本ジュニア (U17) 選手権大会	3月18日～21日	柏崎アクアパーク	新潟
⑧	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月25日～29日	千葉国際	千葉

(4) 【アーティスティックスイミング競技】

①	日本選手権水泳競技大会	4月27日～29日	辰巳国際	東京
②	日本アーティスティックチャレンジカップ 2019	8月1日～4日	鴨池公園プール	鹿児島
③	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～25日	金沢プール	石川
④	国民体育大会	9月12日	笠松運動公園プール	茨城
⑤	日本学生選手権水泳競技大会(マメイトカップ)	9月14日	横浜国際	神奈川
⑥	13～15歳ソロ・デュエット大会	1月25日	横浜国際	神奈川
⑦	アーティスティック ナショナルトライアル2020	1月26日	横浜国際	神奈川

(5) 【オープンウォータースイミング競技】

①	オーシャンズカップ	5月18日	館山市北条海岸	千葉
②	国民体育大会	9月11日	潮来特設 OWS 会場	茨城
③	日本選手権水泳競技大会	9月22日	館山市北条海岸	千葉

2. 国際競技会の開催事業

東京オリンピック (2020年) および世界選手権福岡大会 (2021年) を見据え、2019年度は競泳ワールドカップをオリンピックと同時期の8月に長水路で開催するとともに、AS ワールドシリーズも継続開催し、FINA との連携をより一層強固なものとする。また、国際大会への審判派遣もさらに拡充する。

(1) 【競泳競技】

①	スイミングワールドカップ	8月2日～4日	辰巳国際	東京
---	--------------	---------	------	----

(2) 【アーティスティックスイミング競技】

①	ワールドシリーズ2019	4月27日～29日	辰巳国際	東京
---	--------------	-----------	------	----

3. 各競技委員会事業

(1) マーケティング事業

東京オリンピック (2020年) および世界選手権福岡大会 (2021年) の開催に向けて、オフィシャル・スポンサー、パートナー、サプライヤーなどの各企業とのさらなる連携を図るとともに、新たな協賛企業の獲得に努める。

(2) 競技事業

本連盟主催大会では、各主要大会の開催地加盟団体や本連盟学生委員会、(公財) 全国高等学校体育連盟、(公財) 日本中学校体育連盟などのスポーツ団体と連絡調整を密に行い、準備から大会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。東京オリンピックで使用する東京アクアティクスセンターが2019年度内に竣工・引き渡しとなるため、同プールにおける初の主催大会となる全国 JOC ジュニアオリンピック春季大会 (2020年3月末) では、施設の特徴を最大限生かし、主管団体である (公財) 東

京都水泳協会との綿密な連携のもと、円滑な実施を目指す。併せて、同施設・設備に関する調査を重ね、東京オリンピックの競技運営の準備を加速させる。

(3) 学生競技会事業

東京辰巳国際水泳場にて開催される第95回日本学生選手権水泳競技大会、鹿児島県鴨池公園水泳プールにて開催される第66回全国国公立大学選手権水泳競技大会をはじめとする、全ての学生大会の成功に向け加盟6支部が全力で取り組むとともに、昨年度より実施している「学生向けアンチ・ドーピング講習会」を継続開催する。また、全国代表者会議を開催（年4回）し、各支部間相互の連絡融和を図りつつ、厳正なる学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。東京オリンピックに向け学生補助役員を育成し、日本選手権など本連盟主催の競技会事業に対する学生の派遣を行う。

II 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、各種基盤・インフラを整備し、その水準を維持することにより、さらなる水泳競技の普及発展を図る。

1. 競技者登録事業

本連盟を取り巻く環境の変化に対応した情報管理および多機能・多目的を迫及したシステム基盤の整備を通じて、正確で利便性の高い団体登録情報・競技者登録情報の管理基盤（システム利用環境）の実現を図る。

競技者登録システム（Web-SWMSYS）の再構築を図り、団体登録・競技者登録の管理徹底を図る。

2. 競技規則制定事業

国際水泳連盟（FINA）の競技規則との整合性を図るとともに、最新版の全種別の競技規則をHPに掲載して適宜情報発信を行い、全国統一の理解・共通認識のもとで、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進・実施する。

3. 競技役員養成・登録事業

「水泳ニッポン・中期計画2017-2024」に準拠し、全国の競技会をより充実させることを目的に、選手の力を引き出す高いレベルの審判員を養成する。国際基準の眼を培い、「世界トップレベルの水準で、全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指し、本連盟の主催大会における加盟団体競技委員長の実技研修などを継続して行う。また、例年通り、ブロック研修会ならびに加盟団体主催の研修会に本連盟より講師を派遣する。東京オリンピックに向けて、競技役員資格取得者17,000人を目標に、本連盟の方針や競技規則が全国各地で浸透するように取り組む。公認競技役員および公認審判員の更新業務を円滑に行うとともに、管理・活用についての研究を継続する。

4. 競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、管理する事業を行う。各地で開催される公認公式競技会の3日以内の記録結果報告は、加盟団体の情報システム担当者の協力により順調に推移している。今後は、記録管理システム環境の整備による、記録ランキングシステムと連携したシステム保全作業の効率化を図る。

5. 施設用具公認推薦事業

競技場となるプールの新規公認および更新登録を行う。また、競技に関わる施設用具や水泳競技に関連する企業との連携を図り、公認推薦規程に則り、公認推薦事業を行う。

6. アンチ・ドーピング事業

(1) 主催競技会でのドーピング検査事業

国際的なドーピング防止活動の一環として、(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携し、主催大会においてドーピング検査(競技会検査)を実施する。また、選手の権利を守る立場であるNF代表役員を主要競技大会のドーピング検査会場に配置する。

(2) その他の事業

- ① HP掲載資料作成、薬の治療目的使用に係る除外措置(TUE)申請に関する書類審査
- ② 強化合宿・研修会などへの講師派遣
- ③ 競技会相談担当スポーツファーマシスト派遣
- ④ JADA会議へのNF代表役員の参加
- ⑤ 競技会におけるアンチ・ドーピング啓発活動(アウトリーチプログラムの実施)

III 選手派遣事業

選手派遣事業は、本連盟の財源はもとより国の補助金や助成金など公的資金を活用することから、費用対効果を含めた評価および報告の義務が課せられる。各派遣の目標達成に向けた計画・準備などをはじめ、東京オリンピック(2020年)および世界選手権福岡大会(2021年)に向けた競技力向上のために強化事業および派遣事業がより効果的に実施されるよう、水泳界の英知を結集して総力戦で臨む。

1. JOC事業

(1) 第30回ユニバーシアード大会

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ① 期間・場所 | 7月3日～14 | イタリア・ナポリ |
| ② 競技種目・日程 | | |
| (a) 競泳 | 7月4日～10日 | |
| (b) 飛込 | 7月2日～8日 | |
| (c) 水球 | 7月2日～14日 | |

2. 特別事業

(1) 第18回世界選手権水泳競技大会

① 期間・場所	7月12日～28日	韓国・光州
② 競技種目・日程		
(a) 競泳	7月21日～28日	
(b) 飛込	7月12日～24日	
(c) 水球	7月14日～27日	
(d) AS	7月12日～20日	
(e) OWS	7月13日～19日	

IV 選手強化事業

自国開催である東京オリンピック（2020年）および世界選手権福岡大会（2021年）の競技成績で強化5部門が評価される。年度毎に明確な目標を掲げ、東京オリンピックでは競泳は金メダルを含む過去最多のメダル獲得、AS は銅メダル以上、飛込・水球・OWS はメダル獲得および上位入賞を目指す。そのために月1回の特別強化本部会議を実施して5部門の進捗状況を適確に把握し、年度毎に改善・改良・好循環を重ねながら目標達成に邁進する。

1. 競泳強化事業

2018年度のアジア大会では、池江璃花子選手が金メダル6個を獲得して MVP を獲得したことが大きなニュースとなったが、チーム全体で金メダル19個、銀メダル20個、銅メダル13個の計52個のメダルを獲得した「チーム力」も、オリンピック中間年としては大きく評価したい。一方で、世界選手権大会（短水路）において瀬戸大也選手が世界新記録で金メダルを獲得したように、東京オリンピックの中間年から前年にかけて、選手各自が課題を明確にして個別に強化に取り組む時期に既に入ってきている。上記を踏まえ、2019年度はオリンピック候補となりうる選手個々の強化計画を尊重しつつ、東京オリンピックにおけるリレー全種目出場に向けて「チーム」として世界選手権大会を戦うことが最重要課題と考える。またユニバーシアード大会での新戦力の台頭を通じて、ナショナルチームの層が厚くなることを大いに期待したい。

ジュニア強化（高校生および中学生）に関しては、世界ジュニア選手権大会、アジアエージ選手権大会、オーストラリア遠征に代表を選考して派遣する。ブロック代表国際大会派遣は、引き続きシンガポールを派遣先として実施する。また、国内強化は中央と地方で行い、第40回ナショナル強化合宿（中央：12月12日～20日）、ジュニアブロック合宿（10地域）、エリート小学生合宿（年2回、春・秋）を継続して、合宿強化を実施する。ジュニア SS 育成合宿を含め、全ての強化が縦（ジュニアからシニアへ）に繋がり、横（全国へ）に広がるように展開して2020年を迎えたい。

(1) 国際競技会

① ヨーロッパグランプリ	6月	ヨーロッパ
② 世界選手権大会	7月	韓国・光州
③ ユニバーシアード大会	7月	イタリア・ナポリ
④ 世界ジュニア選手権大会	8月	ハガラー・ブダペスト
⑤ アジアエージ選手権大会	9月	インド・ハイドラバード

⑥ ジュニア選抜遠征	1月	オーストラリア
⑦ ジュニアブロック選抜遠征	3月	シンガポール

(2) 強化トレーニング合宿

① 世界選手権大会代表合宿	4月～5月	オーストラリア・ケアンズ
② 世界選手権大会代表合宿	4月・5月・7月	JISS
③ ユニバーシアード大会合宿	4月～5月・6月	JISS
④ 世界選手権大会高地合宿	4月・5月・6月	シエラバダ/フラッグスタッフ
⑤ 世界選手権大会平地合宿	4月～7月	JISS
⑥ 世界ジュニア選手権大会直前合宿	8月	ハンガリー
⑦ エリート小学生合宿	4月・9月	JISS
⑧ ジュニアSS育成合宿	隔月	JISSなど
⑨ ナショナルチーム合宿	12月	東御
⑩ 自由型合宿	12月	JISS
⑪ ナショナル合宿	12月	鈴鹿・富士など
⑫ インターナショナル合宿	10月・11月・12月・2月	JISS
⑬ 地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県

(3) コーチ派遣・招聘

① ASCA 会議	9月	アメリカ
② 海外コーチ招聘	10月	

(4) 企画・研修および講習会

① 全国強化コーチ会議	10月	東京
② ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京(クリニック)
③ ブロック合宿担当者会議	10月	東京
④ 強化コーチ巡回指導	12月	ブロック各地

2. 飛込強化事業

2018年度は、主要な戦績が FINA ワールドカップ（中国・武漢）での男子3m 飛板飛込の8位入賞、アジア大会での男子3m シンクロ飛板飛込の銅メダル獲得に止まり、東京オリンピック中間年としては十分な成果を出すことができなかった。東京オリンピックでメダルを獲得するためには、残された期間、主要国際大会で上位入賞を継続していかなければならない。そのため2019年度は巻き返しを期し、7月の世界選手権大会（韓国・光州）では、個人種目で3位入賞・オリンピック出場権獲得を目指す（個人種目のオリンピック出場権獲得は12位以内）。またシンクロ種目も上位入賞を目指し、12位以内を最低目標とする（シンクロ種目のオリンピック出場権獲得は3位以内）。

東京オリンピックに向けては、各種目の他国の戦力分析を継続し、強化重点種目の①女子高飛込、②シンクロ3種目（女子シンクロ飛板飛込・女子シンクロ高飛込・男子シンクロ飛板飛込）の強化を重点的に行い、個の強化（高難易度種目の習得と安定性）と積極的なペアリングを継続する。また、「有望アスリート海外強化指定事業」も継続し、海外での長期合宿、強豪国との連携および情報収集に取り組む。

ジュニア強化では、2024年パリオリンピック・2028年ロサンゼルスオリンピックを

見据え、アジアエージ選手権大会でのメダル量産を目指す。2018年度の世界ジュニア選手権大会（ウクライナ・キエフ）において2種目で3位入賞を果たした勢いを同大会に繋げ、飛込競技の特性を踏まえた技術力・精神力に長けた勝負強い選手の早期育成を図る。エリート小学生合宿およびエリートアカデミー制度は、JISS・NTCが体操・トランポリンなどの強化拠点でもある利点を最大限活用し、将来有望なジュニア、エリート小学生およびエリートアカデミー生の一貫強化を集中的に実践する。

ハイダイビングは、世界選手権福岡大会（2021年）での好成績を目標に、各種大会および合宿で強化を図るとともに情報収集に努める。

（1）国際競技会

① 世界選手権大会	7月12日～20日	韓国・光州
② アジア CUP	TBC	TBC
③ International Youth Diving Meet 一部自己負担	4月25日～28日	ドイツ・ドレスデン
④ FINA Diving World Series	5月10日～12日	ロシア・カザン
⑤ FINA Diving World Series	5月17日～19日	イギリス・ロンドン
⑥ FINA-GP(スペイン)	6月7日～9日	スペイン・マドリッド
⑦ FINA-GP(イタリア)	6月14日～16日	イタリア・ボルザノ
⑧ ユニバーシアード大会	7月2日～8日	イタリア・ナポリ
⑨ アジアエージ選手権大会	9月22日～10月2日	インド・ハイドラバード
⑩ CAMO International 一部自己負担	TBC	カナダ・モントリオール
⑪ FINA-GP(シンガポール)	11月22日～24日	シンガポール・シンガポール

（2）強化トレーニング

① ナショナル海外合宿助成事業 (ア) 海外合宿	11月13日～20日	シンガポール・シンガポール
② ナショナル強化国内合宿 (ア) 世界選手権大会強化合宿	5月	TBC
(イ) ユニバーシアード大会強化合宿	6月	TBC
(ウ) 国内強化合宿(5回)	10月・12月・1月・ 2月・3月	静岡・浜松
③ ジュニア強化 (ア) アジアエージ選手権大会事前強化合宿	9月	TBC
(イ) ジュニア強化合宿	12月23日～25日	三重・鈴鹿
(ウ) エリート小学生強化合宿	10月6日～9日	東京辰巳+JISS

（3）エリートアカデミー活動

通年 JISS+辰巳・千葉国際

- ① ナショナルトレーニングセンターの施設を活用した、トップレベルの専任指導者（他競技を含む）による長期的・集中的な競技スキル指導プログラム
- ② ライフスキル・コミュニケーションスキルの習得、社会性・人間性の向上を目的とした知的能力開発プログラム
- ③ 共同生活およびトップアスリートとの交流を通じた、社会規範および競技への取り組み姿勢を培う人間形成プログラム
- ④ 国際人として海外で活躍するために必要な語学教育プログラム
- ⑤ 基礎学力の習得を目的とした学習（補習）プログラム
- ⑥ 国際大会派遣による競技力向上および海外選手との交流を通じた、国際的資質向上プログラム

(4) 企画・研修会および講習会

① 強化コーチ会議	10月大阪・他	数回
② ブロック代表者会議	11月30日・12月1日	東京 NTC 会議室
③ 公認審判員研修会		
(ア) A級・B級公認審判員中央研修会	5月・6月・7月	数回
(イ) C級公認審判員研修会	中央研修会後	随時

3. 水球強化事業

2019年度男女日本代表は、世界選手権大会（7月、韓国）における決勝トーナメント進出を最大の目標とする。同大会が東京オリンピック前年における最大規模の国際大会であり、日本代表および強豪各国チームの強化推進状況を確認する上で重要な機会となるためである。代表強化策の主軸として継続11年となる FINA 水球ワールドリーグでは、男女ともにファイナル進出を目指す。強化施策は、男子代表は欧州強豪国のセルビアやハンガリーに強化拠点を置くこと（ハブ構想）により遠征強化内容を充実させ、女子代表はタイプの異なる強豪国（豪州、オランダ、アメリカなど）との交流を軸に展開する。代表主力選手の欧州強豪クラブへの長期派遣事業については、対象選手を見直して継続する。強豪国との合同合宿および強化試合は、各都道府県が諸外国と進めている東京オリンピック強化誘致事業との調整を図り、効果的に実施する。特に7月の世界選手権大会直前には同大会に出場する強豪国の日本国内での調整が計画されていることから、2019年2月から導入された新ルールへの戦術対応も含め、この機会を最大限活用する。

ジュニアの育成・強化事業では、2018年度アジアジュニア選手権大会で優勝した男子メンバー、準優勝した女子メンバーを中心にした代表チームを世界ジュニア選手権大会（U20）に派遣し、男女ともに8位以内を目標とする。また大学生年代をユニバーシアード大会に、ユース年代をアジアエージ選手権大会に、それぞれ男女代表を派遣する。なお育成世代の国際大会においても、日本代表チームの戦術を使って一貫強化体制を推進する。

代表チームの編成については、戦略的に世代交代を進めた結果、東京オリンピックを見据えた幅広い年齢層の対象選手が整いつつあり、競争環境が作られてきている。引き続きチャレンジャー精神を忘れず、気を引き締めて強化事業を推進する。

(1) チーム派遣

① 男子ワールドリーグ インターコンチネンタルカップ	3月26日～30日	オーストラリア・パース
② 女子ワールドリーグ インターコンチネンタルカップ	3月26日～30日	オーストラリア・パース
③ 男子ワールドリーグ スーパーファイナル	6月18日～23日	セルビア
④ 女子ワールドリーグ スーパーファイナル	6月4日～9日	ハンガリー・ブダペスト
⑤ 世界選手権大会（男女）	7月12日～28日	韓国・光州
⑥ ユニバーシアード大会（男女）	7月2日～14日	イタリア・ナポリ
⑦ 男子世界ジュニア選手権大会	8月16日～24日	クウェート
⑧ 女子世界ジュニア選手権大会	9月9日～15日	ポルトガル・フンシャル
⑨ 男女アジアエージ選手権大会	9月22日～30日	インド・ムドゥラバード

(2) 国際大会派遣選手選考委員会

① ワールドリーグ・スーパーファイナル(男女)	2月・5月	2018・19年度選考対象試合・ほか
② ユニバーシアード大会	4月	2018・19年度選考対象試合・ほか

③	世界選手権大会	5月	2018・19年度選考対象試合・ほか
④	男子世界ジュニア選手権大会	7月	2018・19年度選考対象試合・ほか
⑤	女子世界ジュニア選手権大会	7月	2018・19年度選考対象試合・ほか
⑥	男女アジアエージ選手権大会	8月	2018・19年度選考対象試合・ほか
(3) 強化トレーニング合宿			
①	海外拠点強化合宿	10月-3月	セルビア・ハンガリー
②	国際競技会国内事前合宿	通年	JISS ほか
③	ナショナルチーム・ユニバー強化合宿(男女)	通年	JISS ほか
④	男女ジュニア・ユース研修 (男女)	7月・8月・12月	関東近郊・岡山
⑤	海外選手派遣事業	通年	欧州
(4) チーム招聘・コーチ招聘			
①	男子ハンガリー・セルビア代表など	5月・6月・7月	JISS・柏崎
②	女子豪州代表など	5月・6月・7月	倉敷
(5) 企画・研修および講習会			
①	男女強化コーチ会議	6月・8月・9月・10月・3月	
②	全国コーチ会議・研修会	10月	
③	国際情報収集	通年	
④	日本代表ゲーム分析・評価事業	通年	
⑤	代表候補選手研修会	4月・11月	
⑥	コーチ研修会	10月	
⑦	審判指導者合同研修会 (国際トップ 審判員の招聘)	10月	
⑧	ジュニア指導者研修会	12月	

4. アーティスティックスイミング強化事業

2019年度は、世界選手権大会での全種目表彰台を目標とする。中期的展望のもと、2017年秋に策定した東京オリンピック特別強化策を一部修正しつつ、翌年のオリンピックを念頭に代表強化を推進する。世界選手権大会の代表選手は、デュエットおよびミックスデュエットは2018年9月に決定し、チームはヘッドコーチ推薦選手とクラブ推薦選手による選考合宿（2018年10～12月）を実施した上で12月に決定し、代表強化をスタートさせた。主な強化課題は、①チームスケール大型化、②身体づくり（切れのあるシャープな動きができる身体づくり、可動域向上、脚質強化）、③技術強化（高さ、シャープさ、正確さ）、④リフト強化（土台&トップ）とする。

さらに、2024年・2028年のオリンピックを見据え、B代表、ジュニア（15～18歳）代表、13～15歳代表の派遣を継続する。B代表はWS スペインオープン（5月、バルセロナ）、ジュニア代表はアジアエージ選手権大会（9月、ハイドラバード）、13～15歳代表は2019年から新設された世界ユース選手権大会（8月、サモリン）に派遣し、それぞれ全種目での表彰台を目標とする。また、2014年秋より開始したジャンパー&セカンド育成プロジェクトを継続し、リフト強化を促進する。ユース年代（11～14歳）については、全国8ブロックより選抜された有望選手を対象にユース有望合宿を実施し、有望選手からユースエリート強化選手を若干名選抜し、ユースエリート強化合宿ならびに国際大会派遣を通して、次代の中心戦力選手を着実に育てていく。また、2017年度から取り入れた柔軟性向上を目的とした小学生柔軟性合宿を継続し、正しい方法での柔軟性トレ

ーニングを指導し、低年齢のうちに柔軟性を獲得させる方法を国内に周知する。

4年おきの FINA ルール変更後の2シーズン目を迎えることから、世界の傾向を研究・分析し、全国への迅速かつ正確な情報伝達を行う。コーチキャンプ、審判強化研修などを通して、専門知識や指導技術の実践研修を行い、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。

(1) 国際競技会

① 世界選手権大会	7月	韓国・光州
② FINA ASWS ギリシャオープン	4月	ギリシャ・アレクサンドロポリス
③ FINA ASWS 中国オープン	5月	中国・北京
④ FINA ASWS アメリカオープン	5月	アメリカ・グリーンズボロ
⑤ FINA ASWS カナダオープン	5月	カナダ・ケベックシティ
⑥ FINA ASWS スペインオープン	5月	スペイン・バルセロナ
⑦ FINA ASWS スーパーファイナル	6月	ハンガリー・ブダペスト
⑧ 第10回アジアエージ選手権大会	9月	インド・ムドラーバード
⑨ 第1回FINA 世界ユース (13-15) 選手権大会	8月	スロバキア・サモリン
⑩ クリスマスプライズプラハ	12月	チェコ・プラハ
⑪ FINA ASWS フレンチオープン	3月	フランス・パリ

(2) 強化合宿

① 世界選手権大会代表合宿	4～7月	JISS・大阪・グアム
② ミックスデュエット代表合宿	4～7月	JISS ほか
③ アジアエージ選手権大会代表合宿	4～9月	JISS ほか
④ スペインオープン代表合宿	5月	JISS
⑤ 2024・2028五輪対策ジャパン&セクト育成プロジェクト外合宿	10～2月	JISS・NTC
⑥ 2024・2028五輪対策ジャパン&セクト育成プロジェクト海外合宿	3月	ロシア・モスクワ
⑦ 全国選抜シニア中央合宿	12月	JISS
⑧ 全国選抜ジュニア中央合宿	12月	JISS
⑨ ユース有望選手特別強化合宿	10月	JISS
⑩ ユースエリート育成特別強化合宿	10～12月	JISS
⑪ 小学生柔軟性合宿	10月	JISS・NTC
⑫ ミックスデュエット対策男子選手強化合宿	5月	JISS
⑬ ミックスデュエット対策男子ジュニア強化合宿	12月	JISS
⑭ 東京オリンピック2020代表強化合宿	9～3月	JISS・グアム
⑮ 2020ミックスデュエット代表合宿	9～3月	JISS ほか

(3) コーチ・役員 派遣・招聘

① 海外コーチ招聘	秋～冬	JISS
-----------	-----	------

(4) 企画・研修および講習会

① 代表派遣選手選考会	2月	JISS
② 全国強化担当者会議	10月	JISS・NTC
③ コーチキャンプ	10月	JISS・NTC
④ ナショナルコーチ・国際審判員合同会議	10月	JISS・NTC
⑤ ブロック巡回指導ナショナルコーチ派遣	10～3月	各ブロック
⑥ 審判強化研修	年間	JISS
⑦ 審判研修会、レフリー派遣	年間	競技会開催地ほか

⑧ 競技者育成プログラムバッジテスト	4月・10月	東京・大阪・加盟団体
⑨ ミックスデュエット対策男子選手講習会	4月・10月	東京・大阪

5. オープンウォータースイミング強化事業

2018年度、パンパシフィック選手権大会オープンウォータースイミング（OWS）競技では5位・6位の入賞に止まり、目標としていたメダル獲得は果たせなかった。海外でのFINAワールドシリーズの結果を含め、各レースとも中盤までは日本代表各選手も積極的なレース展開を進め上位グループで善戦するが、最終周回のペースアップ局面での対応力に課題が見られた。また、水面変化、他選手との接触、方向確認などにより本来の泳形を崩しやすく、欧米上位選手と比較してそれらが減速・体力消耗要因となっている懸念もある。

しかし、国際大会における最終ラップでのトップグループの泳速自体は日本選手の競泳力からみて決して対応不可能なレベルではなく、現有の泳速を終盤でも相応に発揮できれば十分に戦うことができると考える。約2時間の連続泳の中で如何に余力を持って最終局面に臨めるかが勝敗の鍵であり、そのための効率の良い泳形維持と持久力の向上が、今後の強化課題と捉えている。

これまで所属クラブでの選手強化を優先し、そのサポート体制としての強化事業を進めてきたが、前述の課題を見据え、2019年度はOWS ナショナルチームとしての強化体制を築き、年間を通しての連続的な強化合宿を実施する。このナショナルチーム体制の構築により、課題である連続泳でのペース変化対応力や持久力向上に努め、併せて日本代表としての意識向上とチーム内での切磋琢磨による相互成長を促す環境を作り上げていく。

また次世代選手の育成については、大学生、高校生をターゲットとし、OWS 競技の認知度向上と浸透を図り、現在の OWS 強化指定選手および競泳中・長距離選手を中心に、競泳・OWS 両競技に挑むデュアルスイマーの育成を進める。ジュニア期はOWSの専門選手を育成するよりも主に競泳の強化に取り組み、その強化の一環としてOWSの参加機会を持つことで、将来のOWS スイマーの適材発掘と選手層の拡大を進める。

(1) 国際競技会

① FINA ワールドシリーズ	6月	ハンガリー・バタフット
② 世界選手権大会	7月	韓国・光州
③ 全豪選手権大会	2月	オーストラリア
④ FINA ワールドシリーズ	2月	カタール・ドーハ

(2) 強化合宿

① ナショナルチームサポート合宿	4月～3月	東京・目黒
② 世界選手権大会代表候補選手強化合宿	5月	千葉・館山
③ 世界選手権大会代表合宿	6月	ハンガリー
④ 世界選手権大会代表サポート合宿	6月～7月	各所属合宿地
⑤ 強化指定選手強化合宿	6月～10月	認定OWS大会開催各地
⑥ 東京オリンピック候補選手合宿	10月	東京・台場
⑦ ジュニア強化合宿	12月	愛媛・松山

(3) 企画・研修および講習会

① 強化コーチ会議	5月・10月	東京・JISS
② 国際審判員派遣	8月	カナダ（ワールドシリーズ）

6. 科学事業

関係諸委員会、JISS、JOC、JSC、加盟団体などとの連携を深め、東京オリンピックに向けた競技力向上に資する科学支援事業を展開する。競泳選手・コーチへのレース分析データの提供について、効率化をより一層、促進する。また、映像データ（水上）の提供を日本選手権で実施する。分析データの利用促進に向けたデータベース化、ならびに活用事例の紹介（月刊水泳連載）を継続していく。合宿における科学サポートも推進し、主にエリート小学生やナショナル選手の合宿においてデータの分析・提供を行う。飛込、水球、AS、OWSの各委員会および加盟団体が行う科学サポート事業に協力するとともに、科学委員会主導の各競技サポートを模索する。教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会の準備・開催に協力する（2019年10月19～20日、JISS および NTC にて開催予定）。広報委員会と連携し、学会などでの最新科学知見を月刊水泳などで広く周知することに努める。さらに、指導者資格付与制度における養成講習会の講師派遣などに協力する。

(1) 競泳のレース分析・撮影

- ① データ利用の促進
- ② 第95回日本選手権大会競泳競技におけるレース分析（全レース）
- ③ ジャパンオープン2019（50m）におけるレース分析（全レース）
- ④ FINA競泳ワールドカップ東京2019におけるレース分析
- ⑤ 第87回日本高等学校選手権水泳競技大会、第59回全国中学校水泳競技大会、第42回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会などのレース分析

(2) 教育・啓発・普及活動

- ① 日本水泳・水中運動学会年次大会（10月）の準備・実施への協力
- ② 指導者資格付与制度への協力
- ③ 『水泳の日』イベントでの水中撮影・映像提供（対象：一般スイマー）

(3) 競技力向上に関する科学サポートの推進

- ① 競泳エリート小学生研修合宿における科学サポート（春・秋）
- ② 競泳ナショナル強化合宿における科学サポート（鈴鹿・富士）
- ③ 水球、飛込、AS、OWSの大会・合宿などにおける科学サポート

7. 医事事業

2019年度は、本連盟関係諸委員会、JISS、JOCと良好な連携を保ちながら、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動および水泳競技をより安全に普及するための調査・研究・広報活動を行う。

具体的には、各種競技会における救護活動、日本代表選手団に対するメディカルサポート、強化指定選手へのメディカルチェック・アンチドーピング活動・水泳選手に好発する障害予防対策の考案と実践、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的とした研究会やミーティングを実施する。さらには、東京オリンピックでの活躍が期待される地方に潜在する有望選手に対して適切なサポートが行われるように、各地域

におけるメディカルサポート活動を行う。そのため各地域ブロックにおいてメディカルスタッフのミーティングを行い、情報共有を図る。

教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また指導者養成講習会などへの講師派遣を行い、水泳医学に関する知識や経験を広く水泳指導者に伝えていく。

さらには、東京オリンピックにおける水泳競技会場での救護活動に関わる準備を、組織委員会と連携して推進する。

(1) 主要競技大会における救護・支援活動

(2) 競技選手へのメディカルサポート活動

- ① 選手のコンディショニングおよび障害・疾病の管理
- ② アンチ・ドーピング活動
- ③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防対策の実践
- ④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動および調査研究活動
- ⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化

(3) 教育・啓発・研究活動

- ① FINA医事委員会との協力
- ② 日本水泳ドクター会議・トレーナー会議への協力
- ③ 障害予防（肩関節障害）のための研究・予防対策の開発・普及
- ④ 指導者養成講習会への講師派遣

V 普及事業

本連盟にとって、普及事業は強化事業とともに二本柱を成す重要な位置づけにある。2019年度も、指導者養成事業、マスターズ水泳を主とした生涯スポーツ事業、OWSの普及事業、日本泳法保存事業、月刊水泳などの機関誌発行事業、ホームページなどを活用した広報事業に取り組む。また、スポーツ庁の国際貢献事業『SPORT FOR TOMORROW』、国際水泳連盟（FINA）の『Swimming For All・Swimming For Life』プログラムと連動した、水泳を通じた国際貢献事業の実施を検討する。なお、本年度が5回目となる『水泳の日』イベントについては、水泳愛好者や水泳ファンの拡大を目指すとともに、水難事故防止の観点から全国展開を継続、推進する。

1. 指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、(公財)日本スポーツ協会と連携協力し指導者養成事業を実施する。

また、(公財)日本スポーツ協会が実施している指導者資格再登録および公認スポーツ指導者管理システム「マイページ」の活用、2019年4月からの指導者制度改定に関して、指導者養成事業3委員会が足並みを揃えて取り組む。

(1) 地域指導者養成事業

- ① (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者(水泳コーチ)に関する事業
 - (a) 水泳コーチ1・2の新規養成事業の推進および新資格制度の徹底と普及、新規養成
 - (b) 水泳コーチ1・2資格取得者の研修、更新、登録
- ② 本連盟基礎水泳指導員に関する事業
 - (a) 基礎水泳指導員資格の養成・研修・更新登録
 - (b) 養成事業に関わる督励・指導・助言
 - (c) アスリートの基礎水泳指導員資格免除認定審議
 - (d) 大学水泳部・コーチ1資格取得への奨励
 - (e) 免除適応校専門科目検定
全国4会場(北海道・東京・名古屋・大阪)
 - (f) マスター上級指導員義務研修の加盟団体移管実施
 - (g) 全国地域指導者(普及)委員長会議の開催
- ③ 普及に関する研究事業
 - (a) 安全対策の研究および普及

(2) 競技力向上コーチ養成事業

- ① 資格審査(年2回)の実施
- ② コーチ資格の新規登録・再登録・登録更新事業
- ③ コーチ研修会事業(コーチ3=11会場・コーチ4=2会場)
- ④ コーチ3・コーチ4養成講習会事業の推進
- ⑤ 免除適応コース実施校の開拓

(3) 水泳教師養成事業

- ① 水泳教師新規養成事業の推進(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - (a) 適応コース講習検定会の実施(本連盟担当)
 - (b) 適応コース大学検定会の実施(本連盟担当)
 - (c) 適応コース認定校の新規開拓(本連盟担当)
- ② 新規養成コース講習検定会の実施(日本スイミングクラブ協会担当)
- ③ 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- ④ スキルアップセミナー in 東京の開催(本連盟担当)
- ⑤ スキルアップセミナー in 愛知の開催(本連盟担当)
- ⑥ 水泳教師資格の新規・更新登録事業(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- ⑦ 水泳教師資格更新研修会事業(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- ⑧ 水泳教師在籍施設証明事業の推進(日本スイミングクラブ協会と合同推進)

2. 生涯スポーツ事業

マスターズ水泳事業は、(一社)日本マスターズ水泳協会および(公財)日本スポーツ協会と連携し、日本スポーツマスターズ大会のさらなる発展を目指し、開催地の大会企画・運営を支援する。

泳力検定事業は、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門と位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進する。

『水泳の日』事業は、3回目となる地方開催を東海ブロックの愛知県名古屋市「日本ガイシアリーナ」(8月11日)にて開催する。実行委員会を中心として、(一社)愛知

水泳連盟、愛知県、名古屋市および各委員会、関連団体と連携を密に図り、企画・立案・運営に全力を尽くす。

(1) 日本スポーツマスターズ事業

- ① 「日本スポーツマスターズ2019水泳競技岐阜大会」の開催（8月31日～9月1日；岐阜県岐阜市 岐阜メモリアルセンター 長良川スイミングプラザ）
- ② （一社）日本マスターズ水泳協会および（公財）日本スポーツ協会と連携した、大会のさらなる発展
- ③ 参加者が少ない第9部の個人種目およびリレー種目280歳の部の普及

(2) 『水泳の日』イベント開催事業

- ① 『第5回水泳の日2019・愛知名古屋』（2019年8月11日；日本ガイシアリーナ）の開催
- ② 加盟団体が継続して主催開催する『水泳の日』イベントへの支援および連携
- ③ イベントに関わる企画・立案・運営のパッケージ化
- ④ 各委員会および関連団体との連携・連絡調整

(3) 泳力検定事業

- ① 泳力検定者および合格者の増加促進
- ② 特別泳力検定会（15会場以上）などの企画・立案・運営
- ③ 泳力検定優秀団体の表彰
- ④ 新設した6級および7級検定者の普及

(4) 優秀登録団体表彰事業

- ① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体の表彰

3. OWS 普及事業

- (1) OWS スイムクリニック、OWS 検定事業の開催
- (2) OWS 審判員養成（審判講習会の開催）
- (3) OWS 指導員養成（指導員講習会の開催）
- (4) OWS 公認コーチ養成（更新講習会の開催）
- (5) 認定 OWS 大会運営仕様の標準化と普及
- (6) 認定 OWS 大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰

4. 日本泳法保存事業

日本泳法大会ならびに日本泳法研究会（それぞれ年1回開催）を通じて、現存13流派泳法の保存と普及を図る。日本泳法大会では競技と資格審査を行うが、流派を問わない公平・公正・適正な演技評価が選手のモチベーションアップと演技審査の質的向上に繋がることから、原則年2回の審判研修会を実施する。資格審査は引き続き上位資格への積極的なチャレンジを推奨し、泳法研鑽継続の動機付けとして推進する。日本泳法研鑽会は、直近2年間、参加資格を拡大して実施したところ参加者から好評であったため、2019年度も継続して実施する。また、資格審査の大会時以外での開催（游士

出張審査)についても、2017年度から4月に和歌山で開催し、2018年度は加えて9月に東京でも開催して一定の成果があったことから、2019年度も継続開催する。

日本泳法が日本独自の水泳文化であるとの認識のもと、その保存および継承の実際を伝えるため、様々な機会を捉えて演技披露を行うなど、広報活動を強化する。国民皆泳の精神を受け継ぐ『水泳の日』イベントには、各流派団体の協力を得て積極的に参加する。

- (1) 游士審査会(和歌山会場) 4月21日 和歌山県秋葉山公園県民水泳場
 - (2) 第64回日本泳法大会 8月24・25日 千葉県国際総合水泳場(千葉)
 - ・泳法競技、同ジュニアクラス、団体泳法競技、同シニアクラス、支重競技、横泳ぎ競泳
 - ・游士、練士、教士、範士、修水、和水、如水の資格認定
 - (3) 第68回日本泳法研究会
 - ・課題「能島流」 3月21・22日 東和薬品ラクタブドーム
(大阪府立門真スポーツセンター)
- ※3月21日の講義会場は、ザ・リッツカールトン大阪
- (4) 第12回日本泳法研鑽会 3月22日(上記日本泳法研究会終了後に実施)

5. 機関誌発行业

機関誌の第一の使命である正確な記録、成績、報告の掲載に重点を置いた編集を心掛ける。一方、「楽しく」見て、読んでもらえるよう、写真やグラフ、イラストなども使った誌面作りを目指す。また、収支改善のため、いたずらにページ数増を目指さない。

6. 広報事業

- (1) ホームページ
 - ① 引き続き、「より速く」を目指し、ページ更新を迅速に行う。CMS機能を使って各委員会のHP担当者が直接ページ更新を行う割合が多くなってきたので、これをさらに推進する。
 - ② 東京オリンピック(2020年)および世界選手権福岡大会(2021年)開催を鑑みて、英語ページ開設も検討する。
- (2) 報道対応
東京オリンピックを1年後に控え水泳に対する注目度もアップしていることから、競技委員会・総務委員会・事務局などと連携して、迅速かつ丁寧な対応を図る。

7. 国際貢献事業

- (1) 要請に応じた水泳指導者の海外派遣制度の検討
指導力と語学力を兼ねた水泳指導者の海外派遣制度の検討

VI 組織運営のための共通事業

先達が築いた水泳ニッポンの歴史・伝統・礎のもと、組織力の一層の強化を図り、競技

団体としての価値向上に資する高潔・公正な組織運営を徹底する。

1. 総務関係事業

本連盟各種会議および地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者・関係団体との情報共有および意思疎通を図り、円滑な業務を遂行する。本連盟を取り巻く社会環境の変化に即応した各種規程の新規策定および改定を遂行する。本連盟事務局の労務環境を管轄し、各種業務の効率化を目指す。

2. アスリート委員会事業

(1) FINA アスリート委員会への提言を目的とした意見集約

- ① アスリートの意見集約
- ② FINA アスリート委員会への提言および報告

(2) JOC アスリート委員会、東京オリパラ大会組織委員会との連携・連動

- ① オリンピック・ムーブメントの推進 (JOC アスリート委員会との連携、協力)
- ② アスリートの社会的地位向上に関する活動

(3) ジュニアアスリートへの啓発活動

- ① JOC ジュニアオリンピックカップでのオリンピック・栄養士・トレーナーなどによる研修講演
- ② アンチ・ドーピング活動の推進 (JADA、(公財) 日本スポーツ協会、本連盟アンチ・ドーピング委員会との連携、協力)

(4) 水泳普及活動および社会貢献活動

- ① 国民体育大会、『水泳の日』イベント開催地における水泳普及活動 (オリンピックの講演、指導、教室ほか)
- ② 水泳普及に向けた新規事業の企画立案
- ③ 障害者水泳の普及活動支援 (オリンピックによる講演、指導、教室、ほか)
- ④ 必要に応じた慈善活動の立案、実践 (オリンピックによる各種募金活動、慰問活動、ほか)

(5) オリンピアン OBOG 会の活動促進

- ① 連絡ツールの作成
- ② 本連盟事業への協力呼びかけ
- ③ オリンピアン OBOG 総会・懇親会の開催 (『水泳の日』イベント時に開催)

3. 特別委員会事業

- | | | |
|----------------|------------|------|
| (1) 財務委員会 | 財務委員長 | 堀 正美 |
| 免税募金事業の推進 | | |
| (2) 競技者資格審査委員会 | 競技者資格審査委員長 | 泉 正文 |
| 競技者資格の審査 | | |

- | | | | |
|-----|--|--------------|-------|
| (3) | 選手選考委員会
国際競技会派遣日本代表選手団の選考 | 選手選考委員長 | 青木 剛 |
| (4) | 指導者養成委員会
指導者養成制度の推進と資格認定審査 | 指導者養成委員長 | 設楽 義信 |
| (5) | 国際委員会
国際関係（FINA・AASF など）の情報収集および共有、国際競技会の招致検討 | 国際委員長 | 緒方 茂生 |
| (6) | アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピング活動の計画と推進 | アンチ・ドーピング委員長 | 鈴木 陽二 |
| (7) | スポーツ環境委員会
スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進 | スポーツ環境委員長 | 齊藤 由紀 |
| (8) | 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導 | 倫理委員長 | 坂元 要 |
| (9) | 危機管理委員会
緊急時対応および危機管理意識の啓発と指導 | 危機管理委員長 | 青木 剛 |

Ⅶ 組織運営および財政基盤の確立

「水泳ニッポン・中期計画2017－2024」に基づいて、各専門委員会を中心に事業内容の精査・充実を推進する。各事業は各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会などの関連団体とも連携を図り実施する。組織運営に際しては、ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底により、スポーツ・インテグリティの向上および組織力の強化を図る。財政面においては、全体の収支バランスを考慮し、有効適切な事業執行ならびに予算管理の徹底を図る。